

第5回諮問検討小委員会

平成28年3月2日
13:00～

○出席者

公運審委員

青木 健 (岩根)、古藤田 憲之 (鎌足)、山田 治子 (清見台)
澤邊 賢司 (岩根西)、松尾 玲子 (富来田)
鶴岡 俊之 (桜井)、本多 二三代 (文化協会)

事務局

原 (清見台)、渡邊・星野・栗本 (中央)、稲木 (岩根)、松本 (八幡台)

○記録 栗本 (中央)

1 答申案の作成について ～前回の修正等、事務局案をもとに検討～

青木 それでは、最初の「はじめに」から検討していきます。

古藤田 6行目「公民館の果たすべき役割も単に社会教育の場にとどまることなく…」の表現が以前と変わっていると思う。趣旨は変わっていないか。

渡邊 趣旨は変わっていない。表現を平易なものにしたりしている。時代の移り変わりの中で、いつの間にか講座主義になってしまい、現場での意見が吸い上げられなかったり、地域課題を取り上げられなかったりする。今までの社会教育のイメージやこれまでの学習形態に囚われずに、様々な課題を取り上げていき、地域自治を推進するために公民館の役割を考えていく必要がある。

古藤田 少し前の生涯学習社会と言われていた時代とは違って、戦後の復興から再び地域との連携が見直されてたということか。

渡邊 生涯学習社会を実現するために社会教育が存在するというニュアンス。諮問内容が「これからの公民館事業の在り方」であり、「はじめに」は答申の方向性を示すための文章である。

古藤田 社会教育委員会議の答申で公民館事業に関することはありますか？

渡邊 社会教育委員会議の答申では、公民館の整備や設置が主になっており、事業については触れられていません。

稲木 数字の表記をそろえた方が良い。全角表記と半角表記が混ざっているの。

星野 数字は半角で統一することにします。

青木 他になければ次に進みます。1(1)について、「このことは、本市においても同様であり、今後、市民の…」と句読点が多いような気がする。

星野 「このことは、」と「今後、」の句読点を取りましょう。

原 以前の文章では、課題と解決策が混在していたが、今回の案では、課題と解決策を別にし、分かりやすくなっています。

渡邊 「本紙の公民館では…主に自治会(町内会)組織を通じて行っており」について、「組織を通じて行って」から下を「組織を通じて行っていることから、自治会加入率の低下は、公民館活動にも大きな影響を与えると考えられる。」に変更するのはどうでしょうか。

原 「今後もつながりを強めていくことが必要」というのは解決策なので、繰り返しになりますが、現状、課題と解決策は2の方へまとめてしまう方がすっきりする。

古藤田 以前より、課題の列挙が減ったと思いますが、内容的な変化はないでしょうか。

原 以前の文章だと「婦人会」のことなどが挙げられていましたが、活動が全てなくなった

わけではないのでそのあたりを修正しました。また、地域団体を育成することも公民館の役割なので、減少する団体に対する支援や解決策については、2～4で述べるのが良いと思います。

青木 1(2)についてはいかがでしょうか。

鶴岡 答申の文章を私なりに箇条書きにしてポイントを整理してみましたので、参考にさせていただければと思います。

古藤田 60歳以上の公民館利用者のデータについては、第14回の公民館のつどいのものが最新なのですか。

原 60歳以上のデータは第14回公民館のつどいの高齢者分科会で行った調査で、それ以降行っていません。

古藤田 だとするならば、年度を入れた方が良いでしょう。

渡邊 新しいデータではないので、あまり入れない方が良いでしょう。男女別データは毎年取っている。

古藤田 「高齢化が進んでいることが分かります。」と言い切っているが、調査を行っていないとすると、確実とはいえないのではないかと。

原 おそらく、高齢者の割合が減っていることはないと考えられる。

古藤田 言い切るのではなく、「進んでいると予想されます。」などはどうか。21年度の資料を根拠にするのは適切ではないのではないかと。21年度の資料については、あくまでも参考であるということが分かるようにする方が良いでしょう。

稲木 (2)のところは、段落ごとに「求められています」「必要です」がくり返し出てくる。言い回しを検討した方が良いでしょう。文章としては違和感がある。

渡邊 「てにおは」や句読点の使い方など、気になったところを挙げてください。

鶴岡 「窺う」という漢字は一般的に使用されているものなのか。ひらがなでよければひらがなにした方が良いでしょう。

星野 「求められます」「必要です」を変えらるとなると、全体の文章のつながりをもう一度考えなおさなければならない。

鶴岡 以前の文章では「重要となっています」が使われていた。

松尾 例えば「期待されます」という表現はいかがか。

星野 まとめると、「定年退職を迎えた人たちの・・・公民館の取り組みが期待されています」に変更し、次のところも、「参加を促すための具体的な・・・検討を進めていくことが重要です」に変更。

古藤田 (3)で、「今後は学習の成果を地域づくりの実践に発展させていくことが求められています」という内容は、実現が難しいのではないかと。

渡邊 鎌足で行われている歴史の学習等が、地域づくりにつながっている例もある。

古藤田 趣旨は理解できるが、もうちょっと分かりやすくしたほうが良いでしょう。「学習の成果」と一口にいわれても難しいと思う。

渡邊 サークル活動で学んだ技術を地域の子どもたちに教えたりするというようなことを指しており、難しいことを言っているのではない。

星野 防災講座などで得た知識を地域で実践できるように、公民館で意図的に仕掛けていく必要がある。

古藤田 「学習の成果」ではなく、「事業の成果」と変更するのはどうか。

渡邊 事業の成果を活かすのは公民館で、学習の成果を活かすのはその人自身。目線が違う。

星野 事業で行った学習という行為をとおして、地域の中でかかわっていく人が増えていく。

古藤田 受益者負担という考え方からすれば、全体に還元していくことは必要だと思う。

渡邊 地域づくりにどのように貢献するか、公民館事業をどのように地域に還元するか、という視点が重要。

松尾 「実践に発展させていくことが」を、「外に向けて発信する」という表現にするとやわらかくなる。

鶴岡 「地域づくりの実践」という言葉が硬い。「地域づくりにつなげていく」などが良いと

- 思う。
- 青木 2(1)はいかがですか。
- 星野 最後の3行は見出しを反復しているだけ。切った方がすっきりする。
- 稲木 「地域の生涯学習」と並んで書かれている「交流拠点」は、「交流の拠点」の方が自然。
- 青木 2(2)はいかがですか。
- 稲木 1行目の「街づくり」は他の表記が「まちづくり」とひらがなになっているので、どちらかに統一したほうが良い。
- 渡邊 「地域づくり」と「まちづくり」という表現が混ざってしまっている。どちらの言葉が適切であるか再考するべき。なおインフラ整備などの街づくりは含まれない。
- 澤邊 ほたる野や金田などは市街地を形成するという意味で、「街づくり」のほうが適切。
- 青木 2(3)「ますます」と「活発に」は削除。
- 稲木 「公民館には・・・役割を担っています」だと主語がおかしい。「公民館は」に変更。
- 古藤田 2(4)「関わりをもつ」と「かわりを持つ」という表記を統一するべき。
- 松尾 下から4行目「取り組みを進めて行く」は「進めていく」に。
- 古藤田 (4)見出しの「地域で支援をを必要とする人々」の具体的な記述がない。
- 渡邊 災害時についていえば、公民館では介護等を必要とする人を受け入れることには限界がある。福祉避難所などの開設も進んできている。ここでは、高齢者自身が支援に関わるような取り組みとして社会福祉協議会やサロン活動を行っている人の活動を支援するようなニュアンスが含まれればと思う。
- 古藤田 教育機関としての公民館の役割なので防災に限らないと思う。支援を必要とする人は高齢者に限られない。高齢者でも支援を必要としない人もいる。見出しの表現と食い違っている。障害者に対する支援についてもどこかに入れた方が良い。
- 星野 支援するのは高齢者だけではないということを加える。最後の3行は再検討。
- 松尾 「多用化」→「多様化」。「教育事業などが」→「教育事業など」。
- 星野 3(1)「公民館を利用したことのない人・・・」という文章が長い。
- 原 一文が2行3行にまたがることもある。「積極的に促す必要があります」と区切る。
- 松尾 「年代に関係なく」を上にもってきて「アンケート結果によれば、『年代に関係なく』公民館が地域の多くの人々に・・・」とするのはいかがか。
- 鶴岡 「つなぐ」「繋ぐ」「つなげる」「繋げる」「つながり」「繋がり」など表記を統一するべき。3(1)の見出しの「利用者層を開拓」→「利用者を開拓」に。
- 稲木 「運営上の理由から会員数に上限を設けているケースも見られることから」という表現と全く同じものが他にも出てくる。
- 古藤田 3(1)の最初の3行は全てとってしまっても良いのではないか。
- 星野 なぜ利用者を開拓しなければならないのか、という理由を最初の3行で説明している。
- 稲木 しかし同じ表現を繰り返すのは良くない。
- 渡邊 取ってしまっても大丈夫だと思う。
- 古藤田 「触れ合う」→「ふれあう」に。
- 原 1(2)の最後の子育て世代に関する内容について、3(1)の内容が重複している。
- 本多 3(2)「地域に還元していくということが」→「還元していくという大きな役割があります。」
- 稲木 「主催事業のサークル化や新規サークルの設立や」で「や」が多い。
- 原 「サークル活動による利用が8割」については、根拠データの記載が必要。「公民館を貸館としてしか利用しなくなったという話も一部で聞くようになりました」というところは明確な根拠があるのか。
- 渡邊 月刊公民館に記載あり。
- 古藤田 そうすると、木更津市のことだけではなく全国的な話。市内の公民館でもそういう傾向があるということか。
- 渡邊 職員の中でもそういう話が出たことはある。
- 原 市民会館が耐震工事をしている期間、そこを利用してた団体が公民館を利用する例があ

- る。文化祭に参加せず、交流しないサークルがあることも事実。
- 渡邊 貸館は公民館の主な役割ではない。サークル活動が地域活動につながっていくことが大切である。
- 古藤田 「地域を見て」という表現に違和感がある。
- 渡邊 取ってしまっても良い。
- 星野 「地域の伝承や文化」は「伝承文化」でなくてもよいか。
- 渡邊 伝承と文化は別のもの。
- 古藤田 3(4)「多用化」→「多様化」。
- 渡邊 「運営上の課題を」→単に「課題を」。
- 古藤田 自治会の構成員の高齢化や後継者不足に関して、公民館が解決することは難しいと思う。
- 星野 公民館と自治会が地域の課題を共有しあい、つながりを強めていくことが大切だという意味である。
- 原 「避難所の運営」→「避難所の開設」
- 古藤田 「多岐にわたる生活課題や地域課題・・・地域課題を解決していくことは困難」で「地域課題」が重複している。
- 渡邊 「地域課題を解決」から「課題を解決」にしたい。
- 原 「公民館では、多岐にわたる・・・課題を解決することは困難です。」と区切る。
- 澤邊 岩根では、自治会の上に「まちづくり協議会」がある。
- 渡邊 「まちづくり協議会」がない地域もある。
- 稲木 全ての団体を列挙することはできない。
- 星野 ここでの趣旨は、地域の諸団体と公民館が連携していくことの重要性である。3(6)で「まちづくり協議会」について述べられているが、1(3)の最後と内容が重複しているため、整理する必要がある。
- 松尾 3(6)「かかげられる」→「掲げられる」
- 古藤田 10頁の「係わる」を「関わる」とどちらかに統一を。
- 青木 それでは今日の会議はここまでにいたします。

2 その他（今後のスケジュール等）

※全委員に答申案を送付し、3月15日を期限に意見を求め、3月18日までに最終調整。

第6回諮問検討小委員会 日時：3月18日（金） 13：00～14：00
場所：中央公民館談話室
内容：定例会に報告する答申案の最終確認。

第4回定例会 日時：3月18日（金）14：30～
小委員長から山田委員長へ答申案（まとめ）を報告。
公運審全員に諮り、修正意見等がなければ最終答申とする。

※早ければ、その日に山田委員長から館長に答申文を提出することも可能だが、委員から意見が出されて修正が必要になった場合は、もう一度小委員会を開いて再度確認を行い、年度内に答申を行なう。